

イスラエルも死んだように見えました。

国土を持つ実体としての国家は、西暦 70 年に滅ぼされたから。

ローマ皇帝ティトゥスが来て神殿を焼き払い、再建したエルサレムの名を全く変えて“アエリア・カピトリナ”と名付け、「ダビデの町、旧約聖書の話は全て神話で、実在したものではない」と定着させたのです。

彼らは何が何でも、人々の記憶からユダヤ人を消し去りたくて、「エルサレムなんて、未だかつて存在したことがない」と広めました。

もちろん、そんなことはナンセンス。今日、それを信じる人など誰もいません。

それから彼らは言ったのです。

「イスラエルの名を地図から消し去ろう。

今からこの地域の名は“パレスチナ”（ペリシテ人の国）。イスラエルの天敵の名前を付けるのだ」ペリシテ人。

そしてイスラエルは消滅し、ユダヤ人は世界中に散らされました。

祖国を持たずに 3 世代以上続いた民族は、歴史上存在しません。

ユダヤ人は散らされ、数十年が経ち、何世紀と過ぎ、2000 年近くの時が流れ、いちじくの木、イスラエルは死んでいました。

ところが、突然！ 1948 年 5 月。5 月 14 日！

春が来て、奇跡的に息を吹き返しました。

歴史的にも前代未聞、彼らは死からよみがえり、息を吹き返し、イスラエルは再び国家となったのです！

イエスは言われました。

**「これらのことがすべて起こるまでは、この時代（世代）が過ぎ去ることは決してありません。」（マタイ 24:34）**

そこで疑問に思うのは、それが 1948 年に起こり、国家として息を吹き返したのなら…世代とは？

世代とは 100 年ということもあり得ます。

40 年ということも。

**その世代の者たちは、ついに、みな死に絶えた。（民数記 32:13）**

彼らがさまよったのは 40 年間。

もしくは、70 年ということもあり得ます。

**私たちの齢は七十年。（詩篇 90:10）**

「一体どれなんだ？ 40 年、70 年、それとも 100 年？」

そう、私たちには分かりません。

40 年から 100 年の間のどこかでしょう。

なぜ主は、ここをあやふやなままにされたのでしょうか。

聖書は私たちに「時期と季節を知れ」と告げていますが、イエスは、

**「その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。」（マタイ 24:36）**

つまり、主はこう言っておられるのです。

「大まかな時期についての理解は与えるが、具体的な年数は知らなくて良い。」

なので、世代とは 40 年から 100 年の間です。

「あなたがたはあそこに 4 世代の間行く。しかしアブラム、あなたは行かない。あなたは長生きして死ぬのだ。」

**あなた自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。(創世記 15:15)**

「アブラム、心配するな。ただ、あなたの民は、異国の地に 400 年間下って行くことになる。」

私たちは彼らがどこへ行ったか知っていますね。

彼らが 400 年間行った国はエジプト。

まさに、神が言った通りです。

なぜ、エジプトなのか。

これがまた、まさに鍵となる理由です。

皆さんの多くは知っていると思いますが、他の人が理解できるように助けてあげてください。

要は**創世記 15:16**

**「そして、四代目の者たちがここに帰って来る。**

**それは、アモリ人の咎が、その時まで満ちることがないからである。」**

これは重要なことです。

アモリ人とは、19-21 節に列記されている人々の包括的な表現で、総括的にカナン人の話をしているのです。

すなわち、ここは「アブラム、この地はあなたのものだ。」

この地とはどの地？

エジプトのナイル川から、北のユーフラテス川まで。今のイラン、イラクです。(創世記 15:18)

皆、西岸地区について話題にしています。(＊1998 年)

「ジョン、西岸地区のこと、どう思う？」

そこで私は度々言うのですが、「どっちの川の話をしてるんだ？」

ヨルダン川西岸なら、疑う余地もなく、それはイスラエルの地です。

本当の議論はユーフラテス川の西岸、イラン、イラクまでのこと。

そこもユダヤ人の地なのです。

誰が、誰を占領しているのか。

神が、神の御言葉が宣言しているのですよ。

ナイル川からユーフラテス川までの地、30 万平方マイル。

さて、これまでにイスラエルが所有した土地で最大のものはソロモン時代、壮大で、偉大なソロモン王国に神が与えた 3 万平方マイル。

言い換えれば、イスラエルは、一番広く所有したソロモン王でさえも、神が与えた土地の十分の一しか所有したことがなかったということです。

そこで疑問なのは、誰が誰を占領しているのか。

どの西岸のことを言っているのか。

真実は、約束の地はナイル川から、はるかユーフラテス川までであるのですから。

すごいですね。広大な領土、30 万平方マイル。神はそれを全部与えると言いました。

「しかし、あなたが今いるこの地域、主に現在、私たちがイスラエルと呼んでいる地域に戻って来る前に、アブラムよ、あなた方は 400 年間エジプトに下る。

アモリ人の咎がまだ満ちていないからだ。

わたしが彼らを絶滅する前に、根絶する前に、彼らに悔い改めるための 400 年を与えよう。」

アモリ人、カナン人は非常に病んだ人々。恐ろしく病んだ社会でした。

どれくらいひどかったか。

彼らは、偶像モレク神の腕の上で赤ちゃんを焼き、子供が燃えるのを見ながら、モレクに敬意を示していた。

小児性愛があまりにも横行していて、自分の子供との性的不品行は実に…

このような場では、これ以上お話しできません。吐き気がする。

どうしようもなく病んだ文化。

彼らは病み、汚れ、墮落しており、もう終わっていました。

そこで神は、「最終的に、わたしが彼らを終わらせる。」

ユダヤ人たちがエジプトで 400 年過ごした後、「もう、十分だ。彼らとその習慣から離れるために、わたしは 4 世紀の期間を与えた。しかし、彼らは自身を破滅させ、他人を汚染し続けている。

そこでヨシュアよ、イスラエルの民が、エジプトから約束の地へ戻ろうとしている 400 年後の今、彼らを滅ぼせ。」

だけど、あなたが話をする人はこんな風に言うでしょう。

「神って、本当に意地悪。旧約聖書を読んだけど、信じられない。人間を絶滅させるだなんて！ なんてこと…」

その時は言って下さい。

「違うよ。神は、これらの人たちが悔い改めるために 400 年の期間を与えたんだ。

だけど、彼らは悔い改めなくて、その病で自らを殺していた。

だから神は、彼らを苦痛から解放してやろうと言ったんだよ。」

旧約聖書の神は“意地悪で怒りっぽい神”だなんて、誰にも言わせてはいけません。

だからイエスが来て、お父さんをなだめなければならなかったんだ、なんて。

そうではないから。

「わたしを見た人は、父を見たのです。」(ヨハネ 14:9)

「わたしと父とは一つです」(ヨハネ 10:30)

神はとても忍耐強い。

アモリ人に対して非常に忍耐深く、今日のテキストの中では、アブラムに対してもそうでした。

ということで、アブラムが眠っている間に、神は彼にこう言われたのです。

「これから起こること。あなたは死ぬ。

あなたの子孫は 400 年間異国で暮らし、4 代目の者たちが多くの財産を持ってここに戻り、この地を所有する。

しかし、400 年間、待たなければならない。

わたしはアモリ人の咎が満ち、滅ぼさなければならないところに達するまで、彼らにチャンスを与えるから。」

アブラムは夢の中でこの全てを聞き、神が語られたことが分かりました。

そして、目覚めた彼が目にしたのは、真っ二つに切り裂いた肉がバーベキューになっていたのです。

焼けていた。

神がそこを通り抜けられたから。

通常の、人同士が契約を結ぶ時のように、アブラムと途中で会うことなく、神が単独で行われたのです。

これは、今日も同じです。

神は、約束をする人や、約束を守る人には興味はなく、約束を受け取る人を探しておられる。

「主よ、私はあなたと契約を結ぶつもりでいたのに！ あなたが全部やってしまった！」

いいですか。

私たちは、肉のためにそれはできません。

**私は、自分のうちに、すなわち、自分の肉のうちに善が住んでいないことを知っています。(ローマ 7:18)**

それで神は言われたのです。

「アブラム、わたしはそれを知っているよ。だから、あなたを眠らせたんだ。わたしはあなたの心に語る。」

「あなたが目覚めたら、わたしが通り過ぎ、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが通り抜けたこと、ただわたしだけで、全てを行ったことを見る。」

「あなたは後を楽しめば良い。わたしがすべてを行うから。」

「アブラム、あなたが弱いことは、わたし知っているよ。」

今日、人々は鳥を追い払ったり、自分の役割を果たそうとします。

そしてようやく、自力ではどうしようもないところまで来て言うのです。

「主よ、私はあなたに目を向けあなたに頼みます。」「あなたにしかできません。」

そうなった時、神は御心を行うことができる。

**神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。(ピリピ 2:13)**  
**あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。(ピリピ 1:6)**

神がして下さいます。

神が約束されたのです。

神は本当にして下さいます。

神が事をなして下さい、

私たちは義の衣を着せられるのです。

数日前、私の番組にある女性から電話がありました。

「私はクリスチャンで、主を愛しています。でも、携挙で挙げて頂けるのか、すごく心配なんです。

実は、私はタバコを吸うのです。止められなくて。」

私は言いました。

「私たちは皆罪人です。でも、義の衣を着せてもらっているのです。

私たちは、神がして下さいたことを信じている。大事なものは、それだけです。

神はあなたも私も義と見て下さり、主の体の一部にして下さいます。

あなたは主の花嫁ですよ。それは、あなたが信じたから。」

アブラムも信じました。

皆さんも信じました。だから、皆さんもキリストの花嫁なのです。

新婚旅行で妻とマウイ島に行った時、私は新しい花嫁の体の全ての部分を連れて行きました。

妻の足の指も、手も、耳も。

「肘は置いていこう」とか、「足首はあそこに置いていこう」とか言いませんでした。

花嫁全体が行くのです。

そこで、その女性に言いました。

「あなたもキリストの花嫁です。

だから、主が花嫁を迎えに来た時、主の花嫁を新婚旅行で天国に連れて行って下さる時には、体全体を連れて行

かれます。』

主は丸ごと連れて行かれます。

それは、私たちが義人なのではなく、行いによるのではなく、主が私たちのために全てをして下さったからです。

それから私は、「あなたは喫煙を心配していますが、主は何と言われましたか。」

(彼は) **傷んだ葦を折ることもなく、くすぶる灯芯を消すこともない。(マタイ 12:20)**

「わたしはタバコを吸う者を捕まえて、水の中に投げ込んだりしない。それは、わたしではない。」

何かの宗教やどこかの牧師、ある人たちはそうかもしれませんが、でも主は違います。

主は全てをなして下さるのです。

アブラムは目を覚まして、その事実を実感しました。

「おお！ 疲れ切ってクタクタになって眠っている間に、主が全てをして下さったんだ！

神は単独で、切り裂かれた物の間を最後まで通って、私に約束を与えて下さった。

私は主を信じることができる。主が契約して下さったのだから。」

あなたが次に契約を結ぶのは、主の食卓に着く時、つまり聖餐です。

あなたは、主の砕かれた体と流された血を手を持ちます。

主は、「これは、あなたとわたしが真ん中で会うのではない。

わたしがあなたの分まで、十字架への全行程を進んで行ったのだ。

わたしは、わたしが約束した通りのことを行う。

あなたはこの血を手を持ち、この砕かれた体を見ている。

わたしは死ぬほど真剣だ。

ジョン、わたしはあなたにその約束を果たそう。

あなたは確信していれば良い。」

### **アブラムの妻サライは、アブラムに子を産んでいなかった。(創世記 16:1a)**

神からアブラムへ、約束は与えられましたね。「あなたは、天の星ほどの子孫を持つ。」

しかし、時が過ぎ、どうなりましたか。

よく聞いて下さい。

時が過ぎて行き、アブラムは考え始めました。

「これは一体どういうことだろう。私には約束は与えられているし、神は全てを行って下さった。

神は私の心に語って下さって、それは確かだ。でも…現実的に、これはどうなんだ？」

時は過ぎて、彼はもう若くない。

この時、アブラムは 86 歳、サライは 76 歳。

それで彼らは「これではいけない」と思いました。

皆さん、次のことをよく覚えていて下さい。

神は約束を与えられます。そして、実行されます。

しかし多くの場合、約束と実現までの間には、時間のギャップがあるのです。

彼らの場合、この時から 13 年のギャップがあります。

16 章で事が起こってから、約束の子イサクがようやく生まれるまで 13 年。

なぜ？

先延ばしにされた？ 神がグズグズしていた？ 神が何かに没頭していた？ 神は忙しくてできなかった？  
違います。整えるためです。

神は信仰の面で、あなたと私を整えておられるのです。

信仰とは、目には見えないことが条件。

**私たちは見えるものによらず、信仰によって歩んでいます。(Ⅱコリント 5:7)**

もし私に見えて、どうなるのかを知っているなら、信仰は求められません。

「ジョン、あなたを信仰の人にしよう。」

「父よ、どうしてですか。」

「信仰とは永遠の世界での共通語、天国での通貨だから。ジョン、永遠では、あなたにそれが必要なんだ。  
信仰は筋肉と同じで、鍛えなければならない。

だから、わたしが約束を与えてから実行されるまでにギャップがあるのだよ。

その間、あなたはわたしを信頼し、わたしを待ち望まなければならない。

たとえば、『主よ、どこにおられるのですか。』と思ったとしても。」

だから、何が起こるか分からない時に、信仰が生じるのです。

蝶がサナギから出て来始めた時、小さなサナギからじわじわと出て来るのが見えます。

「ああ、待ち遠しい！ 早く出ておいで！」

「サナギから出るだけで、どうしてこんなに苦しんで、格闘しないといけないんだ？」

それで、あなたは引き出しからハサミを出して、サナギがぶら下がっている所に戻り、その下の部分をそっと切ったら蝶が転がり出て来ました。

「やった！ プロセスを早めて、苦しみから救ってあげたんだ！ もう自由だ！ 良いことをしたよ！」と思う。

そして、蝶が飛び立つのを待ちますが、ただ地面に横たわってバタバタするだけ。

「頑張れ！ 折角助けてあげたんだ！ 自由にさせてあげたんだよ。頑張って飛んで行け！」

でも、飛びません。

ただセメントの上に転がって、数時間後には死んでしまいます。

「なんで？」

蝶はサナギから出る時、格闘して、二頭筋を鍛えなければならないのです。三頭筋でも構いませんが。

羽を強めるためには、格闘が必要なのです。

そうすれば、打ち破って出て来た時に飛び立てる。

格闘しなければ、飛べません。

闘わなければ飛んで行かない。

信仰も同じです。

格闘がなければ、どうなると思いますか。

決して羽ばたかない。

決して飛び立ちません。

神は、信仰は筋肉と同じで、鍛えなければならないことをご存知なのです。

「アブラム、あなたは信仰の英雄になる。永遠に至るまで、歴史の中で、信仰の模範となる。

わたしが、あなたを信仰の人にしよう。

それはつまり、わたしはあなたに約束を与えるが、あなたは待たなければならないということなのだ。」



「でも、どんどん歳を取っていく。」「ぜんぜん、言った通りにならないじゃないか！」「騙された！」  
「おかしい！ 私は約束を握って、祈って、すべきことは全部したのに、全然上手くいかないじゃないか！」  
誰かがそんな風に言っているのを聞いたことはありませんか。  
自分自身、そのように感じたことはありませんか。

さて、アブラム。

彼は子供がいまま、どんどん歳を重ねて行きました。

そして妻のサライは、

**彼女にはエジプト人の女奴隷がいて、その名をハガルといった。(創世記 16:1b)**

ハガルを覚えていますか。

アブラムが家族を連れてエジプトに下った時に、彼女が与えられました。

あの話、覚えていますね。(創世記 12 章)

### 創世記 16:2

サライはアブラムに言った。

「ご覧ください。主は私が子を産めないようにしておられます。

どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください。おそらく、彼女によって、私は子を得られるでしょう。」

アブラムはサライの言うことを聞き入れた。

彼は「分かった」と言って、このエジプト人の女性のところに入りました。

これは、とんでもないことではなく、当時のあちらの文化では一般的なこと。

ウル、バビロンの文化では、女性が子供を産めない場合、女奴隷に夫と関係を持たせ、生まれた子供は正妻と夫の子とみなされていたのです。

だから、ここに書かれていることは、当時の彼らの地の文化では、何もおかしいことではありません。

つづく

### ヘブル 12:11-12

11 すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。

12 ですから、弱った手と衰えた膝をまっすぐにしなさい。

---

「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波

DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。  
どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。